

「ひろしまサンドボックス」実証プロジェクト（行政提案型）の公募について

令和2年7月22日
イノベーション推進チーム
河川課

1 要旨

平成30年7月豪雨の発生など、豪雨の更なる頻発化・激甚化が懸念される中、的確な避難行動につなげるため、AI、IoT等のデジタル技術を活用し、よりきめ細やかな防災情報を提供する取組を進めているところである。

こうした中、最新のデジタルテクノロジーを活用して様々な課題解決を図るオープンな実証実験の場「ひろしまサンドボックス」のうち、「行政提案型の実証プロジェクト」として昨年度選定した8件が進行しているところである。

このたび、簡易型水位計の開発や水位観測カメラシステムの構築について、実証プロジェクト（行政提案型）による公募型プロポーザルを令和2年5月28日に公告したので報告する。

2 公募の概要

(1) 提示公募テーマ

テーマ	概要
① 簡易型水位計	身近な箇所における河川のリアルタイム情報を拡充させることを目的とした、低コストで容易に設置可能な水位計
② 水位観測カメラシステム	低コストのカメラによる画像から水位データ等を取得すること（量水標等を使用した水位到達状況の把握を含む）ができるシステム

※委託件数は①2件、②2件を予定。1件あたりの委託額は5,000千円を上限。

(2) 公募対象者

県が提示するテーマに対し、AI、IoT等のデジタル技術を活用した技術構築を提案する者。

(3) 審査方法

総務局、商工労働局、土木建築局の委員からなる選定委員会において、第1次審査（書類審査）、第2次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）を実施する。

3 スケジュール

令和2年5月28日（木）	公募開始（県のホームページ等で公告）
7月10日（金）	企画提案締め切り
7月13日（月）～	審査・採択候補先の選定
8月下旬	選定結果の通知・公表
契約日～令和2年度末	実証プロジェクトの実施

4 その他

ひろしまサンドボックス推進協議会会員を含む県内の企業や大学、首都圏のスタートアップ企業等についても、オンラインイベントを令和2年6月5日に開催し、公募プロポーザルの実施について広く情報発信を行った。